

3月1日

## 主教デイビッド

David

(500 頃～589 頃)

～ウェールズの守護聖人～

ウェールズの主教であったデイビッドは、貴族の家庭の息子として生まれます。彼の名前デイビッドは旧約聖書のダビデ（ヘブライ語）の英語読みで、「最愛の者」という意味ですが、彼の生まれたころのことについては、ほとんど分かっていません。

デイビッドは若いころからいくつもの修道院を建て、自ら修道院長になります。修道士として、勉学と黙想、祈りと労働を中心とした静かな生活を送っていましたが、主教に選ばれて、ペラギウス主義といった異端との論争に巻き込まれていきます。しかしその中で、デイビッドは頭角を現していき、その時のウェールズ大主教だったダブリシウスに見込まれることとなります。その結果、デイビッドは後継者としてウェールズ大主教となります。

彼はウェールズで、修道院を 11 か所つくり、主教座を立ち上げ、また教会会議を二度開きました。また、エルサレムやローマへの巡礼も行いました。

またデイビッドは、修道院ではとても厳格で、食事の際にはワインなど出さず、水しか許しませんでした。そこをついたあだ名が「船頭」だったといわれます。



「聖デイヴィッド」

オックスフォード大学

ジーザス・カレッジ礼拝堂

(19 世紀のステンドグラス)

彼は 12 世紀には、ウェールズ教会の守護聖人となります。彼が最後に住んだ街は今でもウェールズ主教座の街で、デイビッドの家 (Ty-Devi) と呼ばれます。また、彼が建てた修道院の一つの跡地に建てられた「セント・デイヴィッド大聖堂」は中世を通して重要な巡礼地となります。

彼には多くの伝説があり、人生の終盤に多くのアイルランドの聖人たちを弟子としたこと、また彼が亡くなった時に、彼の魂を迎えに天使を伴ったキリストが現れたことなどが伝えられています。

デイビッドはウェールズの守護聖人ですが、この 3 月 1 日は「セント・デイヴィッツ・デイ」としてウェールズの祝日にもなっています。

彼が絵画やステンドグラスなど美術作品に彼が描かれる時には、肩に鳩をのせて、主教の祭服を着た姿をしています。

### <特禱>

**信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教デイビッドを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン**